

運動ができていない「働く世代」 現状に「不満」

～横浜市民スポーツ意識調査～

(公財)横浜市体育協会では、毎年、横浜市民の運動・スポーツ実施状況とスポーツに対する意識を把握するため、市民スポーツ意識調査を行っています。平成29年度は、「過去1年間の運動・スポーツ実施種目」をはじめとして、「スポーツ観戦に関すること」、「健康寿命に関すること」、「医療費」、「回答者のお子さんのスポーツ観戦種目」、「所有している健康器具」についても調査を行いました。

この度、これらの調査結果を取りまとめ、「横浜市民スポーツ意識調査報告書(PDFデータ)」および「単純集計結果(EXCELデータ)」を横浜市体育協会のホームページで公開しました。

TOPICS

- ★スポーツ実施率は**77.3%**(前回▲1.7ポイント)
- ★「週1日以上」の実施率は**48.7%**(前回▲3.9P)、「週3日以上」は**24.3%**(前回▲2.5P)
(スポーツ基本計画(国)・スポーツ推進計画(市)の目標⇒週1日以上:65%,週3日以上:30%)
- ★「20代男性」、「30代・40代女性」は、**実施率が低く実施頻度も低い**
- ★「夫婦や恋人との観戦」、「複数人での観戦環境整備」が「女性」の観戦率の底上げに。
- ★「20代」、「30代」はボランティア実施率が高く、**チャリティー活動**にも興味あり。
多種多様なボランティア情報を発信することも実施率向上には有効か。
- ★「定期的」にスポーツ活動をしたい「女性」と「イベント派」の「男性」
- ★健康への関心が低い「20代」も「日常的に歩きたい」ニーズあり
- ★働く世代の「非実施者」は**運動状況に「不満」、健康だと「感じていない」**
- ★スポーツを主目的とせず、**気づいたら「歩いている」**仕掛けも大切




◆◆調査概要◆◆

- ◇対象者：横浜市に居住する満20歳以上男女 ◇主な調査内容：実施・観戦種目と頻度
- ◇調査方法：インターネットのアンケート調査 子どもの観戦状況
- ◇調査期間：平成29年10月13日～18日 健康・医療費への意識
- ◇回収状況：有効回答数1,600件 保有している健康器具

◆詳しくは(公財)横浜市体育協会ホームページをご覧ください。

<http://www2.yspc.or.jp/ysa/jigyoshokai/chosa/>

お問い合わせ先  公益財団法人横浜市体育協会 経営企画部 経営企画課

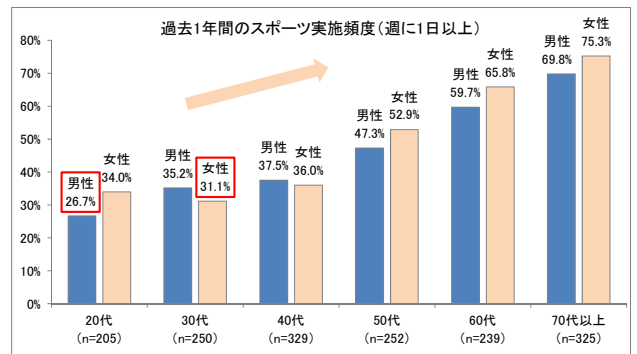
〒231-0015 横浜市中区尾上町6-81 ニッセイ横浜尾上町ビル2階 Tel:045-640-0016

裏面あり

【調査報告の一例】

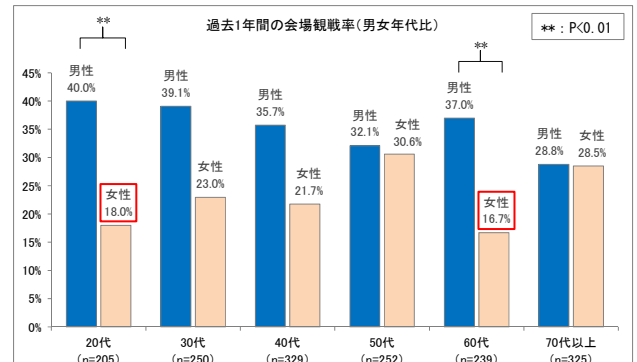
■ 「20代男性」、「30・40代女性」の実施頻度

「週に1日以上・3日以上」とともに「20代」は最も低く、中でも「20代男性」が最も低くなった。一方で、「70代以上の女性」は最も高くなり、その差は約3倍近くなった。この結果「20代男性」は実施率も低く、またその実施頻度も低い状態となった。また、女性では「30代女性」が最も低くなった。

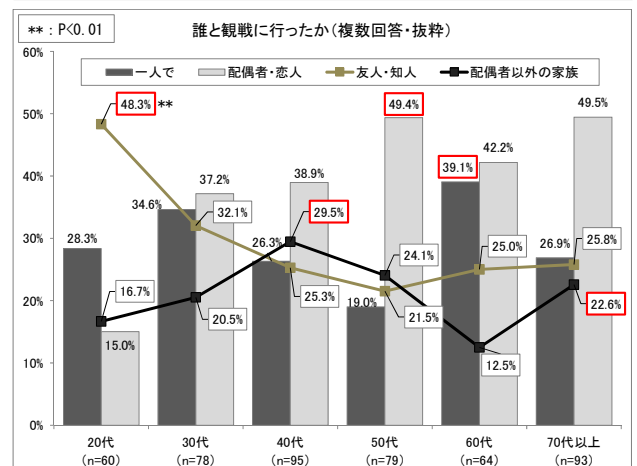


■ 「女性」は観戦率が低い 底上げはどう図るか

「男性」の方が「女性」よりも大幅に観戦率が高く、男女間での観戦率の差は10ポイント以上となった。中でも「60代女性」の観戦率が16.7%と最も低く「60代」における男女間の観戦率には有意差があった。



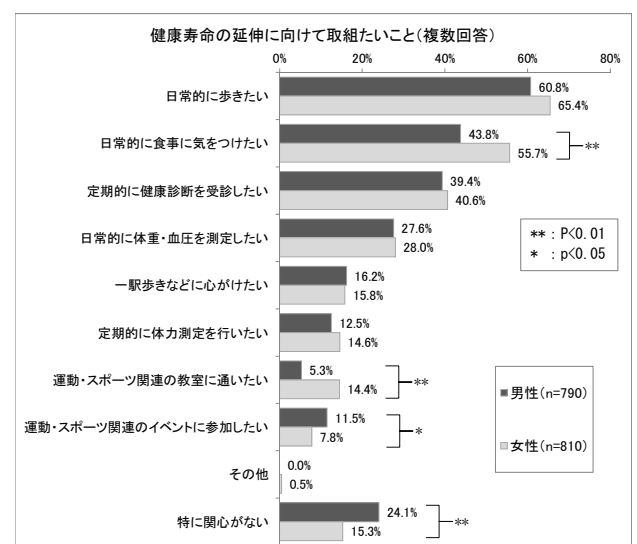
一方で、「50代」・「70代以上」では、男女間の観戦率に大きな差が見られず、女性の観戦率が比較的高い結果となった。「50代」・「70代以上」は、「配偶者・恋人」との観戦割合が高くなったことから、「夫婦や恋人」との観戦により、「女性」の観戦率の底上げを図ることができる可能性もある。



■ 定期的に行う「女性」とイベント派の「男性」

「女性」は、「運動・スポーツ関連の教室に通いたい」も14.4%と高く、「教室」に通うことで「定期的に」運動に取り組みたいという傾向がみられた。

一方で、「男性」は、「教室」よりも「イベントに参加したい」が11.5%と高く、定期的に活動するよりは、単発的に活動したいという傾向となった。



■ 非実施者は現状に「不満」

「非実施者」は、スポーツの実施状況に対する「不満」が23.5%にも達しており、「実施者」に対して有意差があった。また、70%近くが「運動不足」を感じているため、やりたくてもできない現状に対して、どのように「できる環境を整えるか」、また、現状の環境でも「できるものを提供するか」が問われている。

